

2020東京オリンピック・パラリンピックに向けた大分県の取組

1. これまでの取組

①ラグビーワールドカップ2019と連続した取組(フィジー共和国)

- ・大分市が、RWC2019のキャンプ誘致を目指すフィジー共和国の高校生を招いて、県内高校生との親善試合や文化交流等を実施予定(H28.11 基本協定書締結、H29実施)
- ・在別府名誉領事とも連携して交流活動を推進



H28.11
大分市長等
フィジー訪問

②立地企業をきっかけとする取組(マレーシア)

- ・中津市に立地する企業の交流実績を活かしたキャンプ誘致を推進
- ・これまでの経験から、宿泊施設等におけるハラル対応等も万全



H28.12
マレーシア関係者
視察時の歓迎
セレモニー

③日本唯一の開閉式ドーム型陸上競技場を活用した取組(ポルトガル)

- ・2002 FIFAワールドカップの際に建設された大分銀行ドームは、開閉式屋根を備え雨天時でも使用できるため、パラを含む各種陸上競技に最適
- ・2015(平成27)年8月には、ポルトガル陸上チームが世界陸上@北京の事前キャンプを実施し、ネルソン・エボラ選手が男子三段跳で銅メダル獲得



H27.8
ポルトガル代表に
よる陸上教室

④トップ選手の参加により多数の参加を促す取組(フェンシング)

- ・2016(平成28)年3月、大分市でフェンシングW杯@韓国の事前キャンプを実施。世界トップ選手との切磋琢磨を希望する8ヶ国94名もの選手が集まり、県民との交流も実施
- ・2016(平成28)年8月には、日田市での日本、韓国、香港及びカザフスタンのフェンシング合同キャンプも実現。地元出身選手による母校訪問や日田祇園見学(UNESCO無形文化遺産)等の観光・文化交流も併せて実施。



H28.3
日本代表による
フェンシング教室

2. 今後の取組

- ①2018(平成30)年: 国民文化祭・全国障害者芸術文化祭
 - ・東京オリパラの文化プログラムと位置づけ、県内各地の芸術文化活動の魅力を広く情報発信
- ②2019(平成31)年: ラグビーワールドカップ2019大分開催
 - ・大会に向けた機運醸成や事前キャンプ誘致の取組を2020東京オリパラにも繋げる。